

## 研究業績一覧

(2018年1月～12月)

### I. 著書〈分担執筆〉

1. 渡邊正樹・西川英彦、第4章「ディスカウント・ストアとSPA」、石原武政・竹村正明・細井謙一編著、『1からの流通論（第2版）』、碩学舎

流通論の基本的な理論・概念について事例をもとに解説。第4章では、ディスカウント・ストアとSPA (Speciality store retailer of Private label Apparel) の業態としての特徴について、前者はダイソー、後者はユニクロの事例をもとに解説を行った。

### II. 学術論文（査読付き）・国際学会プロシーディング

1. 市瀬信子、杭州地方文献としての『西湖修禊詩』、中国中世文学研究（白帝社）第71号、pp. 21-41

清代は地方別の詩話、地域別の詩文集の編纂が進んだ時代である。特に清代乾隆中期以降に清詩の選集が地域別に編纂されるようになったとされる。それらの中でも桁違いに資料が多いのが、杭州の『国朝杭郡詩輯』とその続集である。杭州という狭い地域の詩集が大規模となるには、多くの材料が必要である。その材料の一つとなったのが、詩会である。本稿では、乾隆11年に開催された杭州詩会の記録である『西湖修禊詩』を取りあげ、杭州地方文献資料という視点から詩会の詩集を見なおし、その意義について考察した。

2. 奥田由紀恵・呉曉娜・福井正康、生存時間分析の課題達成問題への適用可能性—タイピング速度を例として—、教育情報研究、第33巻3号、pp.43-53

生存時間分析は、人の死亡や製品の故障などの分析に利用されることが多いが、他の分野にも応用の可能性を持った分析である。著者は課題達成問題という教育分野への適用を考え、分析ソフトCollege Analysisに、混合ワイブル分布を扱う生存時間分析のプログラムを組み込んだ。この報告では、プログラムの利用法の紹介と、タイピング速度の課題を例とした生存時間分析の適用の可能性について議論する。特に、課題達成までの時間の分布には生存時間分析でよく用いられるワイブル分布が適用可能か、タイピング速度に影響及ぼす要因は何かを考える手法として比例ハザードモデルは有効か、などについて考察する。

3. 小玉一樹、組織アイデンティフィケーションと職務満足が離転職意思に及ぼす影響—従業員の組織内キャリアに着目して—、産業カウンセリング研究、第19巻、第2号、2018、pp. 97～106

本研究の目的は、組織成員の組織アイデンティフィケーション（以下「OID」）と職務満足が離転職意思に及ぼす影響について、組織内キャリア発達段階ごとの相違を明らかにすることであった。キャリア変数として勤続年数を採り上げ、小売流通業の従業員（n=341）を入社から2年目までをステージ1、3年から10年までをステージ2、11年以上をステージ3に分類し、OIDが離転職意思に及ぼす直接効果、職務満足を媒介した間接効果の検討を試みた。その結果、ステージ1およびステージ3のOIDから離転職意思へのパスは有意であったが、職務満足による間接効果は有意ではなかった。ステージ2のOIDから離転職意思へのパスは有意ではなかったが、職務満足による間接効果は有意となり完全媒介効果が示された。これらの結果から、勤続年数3年から10年の従業員の離転職意思は職場環境の望ましさが、その他の従業員はOIDが、それぞれ離転職意思に強く影響を及ぼしていることが示された。

4. Mitsuhiro Hosokawa, Kiyomi Watanabe, Effectiveness of e-learning in College Classroom: English Learning through Open Source Management System, *International Journal of Humanities and Social Science*, Vol. 1, No. 1, 2018, pp.25-32

An e-learning program for a college English course is statistically tested with Path Analysis to verify the effectiveness of its two sections: reading and vocabulary. Mid-term scores and final-test scores of the two sections for three terms are collected and examine how or if these 4 variables predict the final exam scores. The results produced a hierarchical order of variables; “Vocabulary mid-term” → “Reading mid-term” → “Vocabulary final” → “Reading final” → “Final exam.” This order is found to be chronologically paralleling the lesson plan of the course.

5. 堀越昌和、事業承継の円滑化に向けた中小企業ネットワークの活用に関する研究－熊本県中小企業家同友会の取り組み事例を通じて－、日本中小企業学会論集、第37号、pp. 101-114

今日、政府主導のネットワーク形成を通じた、中小企業の事業承継の円滑化が模索される中、当該分野のネットワーク活用に関する研究は、国内外とも不足している。そこで、本稿では、社会学など隣接領域の成果を元に理論的枠組みを構築しつつ、聞き取り調査及び参与観察調査を中心とした質的研究を通じて、事業承継の円滑化に資する中小企業ネットワークの機能性の要件と構造上の特色を明らかにした。

6. 本田良平、渡辺清美、William Faulkner 短編5作品のコレスポネンダンス分析による研究、日本言語教育ICT学会研究紀要、5号、pp. 129-137

ノーベル文学賞作家の William Faulkner の短編 5 編を対応分析にかけ、テキスト間の相対的な特徴を調べた。その結果、「少年の視点」vs「大人の視点」と「人物の意識 vs 「場面の描写」に分けることができることがわかった。

7. Ryohei Honda, Tomoo Asai, Kiyomi Watanabe, Toshiaki Ozasa. A Correspondence Analysis of Seventeen Japanese Historical English-as-a-Foreign-Language Textbooks, *International Journal of Learning, Teaching and Educational Research*, Vol. 17, No. 11, 2018, pp. 102-134

明治期の英語教科書 16 冊と現代の英語教科書 1 冊、計 17 冊を対応分析にかけ、各テキストの特徴を相対的に分析した。その結果、難易順、自然vs人工的、散文vs会話、教員主体vs非教員主体、英語レベルの管理vs非管理、連続性vs非連続性の特徴が確認された。

8. Watanabe, K & Fukui, M. Quantitative Analysis of Initial Stage English Textbooks in Asia in comparison with textbooks in Japan. *2018 International Symposium on Teaching, Education, and Learning –Winter Session*, January 23-25, 2018 Okinawa, *Japan Conference Proceedings*, pp.117-130.

中国、タイ、日本、フィリピン（小学校1年）、Let's Goの中学1年用英語教科書の特徴を主にコレスポネンス分析によって調べた。その結果、アクティビティ中心（日本）、リーディング中心（中国、フィリピン）、また、難易度はフィリピン、タイ、日本、Let's Go、中国の順番であることがわかった。

9. 渡辺清美・坂元真理子・上西幸治・小篠敏明、中国英語教科書のリーダビリティ分析 —日本の英語教科書との比較を中心にして—、日本言語教育 ICT 学会研究紀要、vol. 5、March, 2018、pp. 47-56

中国の小学校から中学校の英語教科書を日本の英語教科書と比較した。結果、中国の教科書は基本的には日本の学年レベルに沿って漸増しているが、中学1年次に小学校1、2年次にレベルが下がっていた。これについては中学から初めて英語を学習する生徒のための配慮であると結論づけた。

10. Watanabe, K & Fukui, M. Statistical Characteristics of English Entrance Exams of Eight National Universities in Japan. *International Conference on Education and Learning, Conference Proceedings*, August 22-24. 373-386.

2017年度の大学入学試験問題から国立大学8校を偏差値別に選び、センター試験問題を加えて、9つの試験問題の英文を量的に調査した。結果、指導要領に準拠した英文難易度測定ツールであるOzasa-Fukui Year Levelでは、すべての入試問題が高校3年レベルより高いことがわかった。さらにコレスポネンス分析の結果、「専門」と「一般」、「比

較文化」と「世界共通」、「主観的」と「客観的」等に分類できることがわかった。

### Ⅲ. 学術論文（その他）

1. 市瀬信子、序から見た『西湖修禊詩』、経営研究（福山平成大学経営学部紀要）、第 14 号、pp1-18
2. 小玉一樹、看護師の組織アイデンティフィケーションと職務満足が離転職意思に及ぼす影響、日本産業カウンセリング学会 TODAY、第 1 巻第 1 号 2018、pp. 36-45
3. 小玉一樹、組織アイデンティフィケーションと職務満足が離転職意思に及ぼす影響－雇用形態の相違に着目して－、経営研究（福山平成大学経営学部紀要）、第 14 号、pp. 19-28
4. 佐藤真司、ファイル処理とデータベースに関する学習支援用モデル教材の開発、経営研究（福山平成大学経営学部紀要）、第 14 号、pp. 29-43
5. 佐藤 幹、都道府県におけるマネジメント・コントロール・システムの適用状況に関する若干の考察、経営研究（福山平成大学経営学部紀要）、第 14 号、pp. 97-106
6. 福井正康、社会システム分析のための統合化プログラム 3 2 －多重共線性・ブートストラップ他－、経営研究（福山平成大学経営学部紀要）、第 14 号、pp. 45-64
7. 福井正康、社会システム分析のための統合化プログラム 3 3 －最尤推定・MCMC－、経営研究（福山平成大学経営学部紀要）、第 14 号、pp. 65-84
8. 堀越昌和、熊本地震と企業経営、ほくとう総研情報誌 NETT、No. 99、pp. 48-51
9. 堀越昌和、熊本地震と中小企業の二重債務問題～「熊本県中小企業家同友会熊本地震復興実態調査」の結果を踏まえて～、商工金融、第 68 巻、第 8 号、pp. 69-70
10. 渡辺清美・福井正康、「アジアの英語テキストの比較分析－中国、台湾、タイの中 1 教科書の比較－」、経営研究（福山平成大学経営学部紀要）、第 14 号、pp. 85-95.

#### IV. 学会報告（討論者を含む）

1. 市瀬信子、陸游「排悶」、讀游會第 235 回、7 月 15 日、京都市呉竹文化センター
2. 市瀬信子、清代詩会における六朝詩の遊び、中国中世文学会平成 30 年度研究大会、10 月 27 日、広島大学東千田キャンパス
3. 江口圭一・佐藤敦子、「看護師のキャリア継続に及ぼす職務満足と職業的自尊心の影響」、日本産業カウンセリング学会第 23 回（国際）大会、9 月 1 日、亜細亜大学
4. 久川亨・藤本瞳・角田英治・木村共美・茂木百合子・佐藤敦子・江口圭一、「公立 A 精神科病院看護師の職務満足の実態」、第 49 回日本看護学会（看護管理）学術集会、8 月 10 日、仙台国際センター
5. 藤本瞳・久川亨・角田英治・木村共美・茂木百合子・佐藤敦子・江口圭一、「公立 A 精神科病院看護師の職務満足とキャリア継続意志との関連」、第 49 回日本看護学会（看護管理）学術集会、8 月 10 日、仙台国際センター
6. 佐藤敦子・江口圭一、看護師職務満足のプロアクティブ行動への影響、日本看護研究学会第 44 回学術集会、8 月 18 日、熊本県立劇場
7. 佐藤敦子・江口圭一、看護師の学習意欲に及ぼす職務満足と職業的自尊心の影響、第 38 回日本看護科学学会学術集会、12 月 16 日、ひめぎんホール
8. 奥田由紀恵、細川光浩、福井正康、教育用分析ソフトウェア College Analysis を使いやすくする機能について、日本教育情報学会、8 月 25 日、松陰大学
9. 尾崎誠、HTML5 によるアニメーション表示の高速化、日本教育情報学会、8 月 26 日、松陰大学
10. 小玉一樹・江口圭一、組織アイデンティフィケーションと職務満足が離転職意志に及ぼす影響：雇用形態の違いに着目して、日本産業カウンセリング学会第 23 回（国際）大会、9 月 1 日、亜細亜大学
11. 佐藤 幹、県庁の組織業績とマネジメント手法との関係、組織学会関西支部研究会、3 月 8 日、関西大学

12. 佐藤 幹、地方自治体のマネジメント・コントロールに関する若干の考察—広島県庁の奇跡の改革に焦点をあてつつ—、国際公会計学会 関西部会、3月17日、関西学院大学
13. 佐藤 幹、地方自治体への「経営予算」導入の可能性—広島県庁の事例をもとに—、日本管理会計学会 関西・中部部会、6月2日、立命館大学
14. 佐藤 幹、日本の地方自治体のマネジメント・コントロールの課題—「経営予算」の萌芽に関する考察—、国際公会計学会 第21回全国大会、9月30日、中村学園大学
15. 福井正康、直交表実験計画法プログラムの開発、日本教育情報学会第34回年会、8月26日、松蔭大学
16. 中村雅子・福井正康・杉山祥子、A 大学生の情報通信機器利用及びインターネット依存の実態について—男女比較から—、日本養護教諭教育学会 26回学術集会、9月29,30日、関西福祉大学
17. 堀越昌和、中小企業の自然災害におけるリスクマネジメント—熊本地震と西日本豪雨での調査を踏まえて—、中四国商経学会、第59回研究発表大会、12月1日、下関市立大学

## V. その他

1. 福井正康、細川光浩、College Analysis を使い易くする追加機能、経営研究 (福山平成大学経営学部紀要)、第14号、pp.107-118